

取扱説明書

自走式牧草刈機

“牧草モア—”

GR536



0279-70000



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社

オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《本製品の規制について》	1
《保証とサービスについて》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《開梱後の組み立てについて》	6
《各部の名称》	7
《方向について…》	8
《各部のはたらき》	8
《エンジンをかける前に点検しましょう》	9
《運転操作のしかた》	10
エンジン始動	10
刈取り作業	11
方向変換	11
斜面での刈取り	11
収草バックの取り付け・取り外し	12
作業終了後	12
《長期保管について》	13
《ナイフの点検・交換・修正のしかた》	14
ナイフの点検・交換	14
ナイフの修正	15
《ワイヤの調整》	16
《スペーサー装着による刈高さ調整》	17
《エンジン点検・整備・調整のしかた》	18
エンジンオイルの点検・補給・交換	18
点火プラグの点検・調整のしかた	18
エアークリーナーの清掃のしかた	19
燃料パイプの点検のしかた	19
燃料フィルタの清掃のしかた	20
《仕 様》	21
《機械を他人に貸すときは…》	21
《工具袋・同梱品明細》	22
《消耗品明細》	22
《定期自主点検表》	23
《エンジン定期点検表》	24
《刈取り診断表診断表》	25
《エンジンの不調とその処理方法》	26

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。



警告

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

- 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- 本書の内容の一部又は全部を無断で複製複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は家庭用芝刈り機として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。

《保証・契約書・免責事項》

- ・ 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- ・ 本製品の保証期間は、新品購入から **1ケ年**、又は **50使用時間** (請負業務用については **6ケ月間**、もしくは **50使用時間**) の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- ・ 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- ・ 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- ・ 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低**毎年1回**は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ・ ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『**商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)**』を併せてご連絡下さい。






種類 Description	芝刈機(歩行型)
型式名 Model	GR536
製造番号 Serial No.	000000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD. MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON	

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、**製造打ち切り後9年**と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

シンボルマーク	定 義
 危険	回避しないと、死亡または重傷を招く確率の高い危険な状態を示します。
 警告	回避しないと、死亡または重傷を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
 注意	回避しないと、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある潜在的な危険状態を示します。
注意	回避しないと物的損害を引き起こす可能性がある潜在的な危険状態を示します。
参 考 ;	操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。

《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

- ・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

警告

- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。 〈22 頁…消耗品明細 頁参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の方は使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

▲ 警告

機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。

- ・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。

▲ 警告

安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- ・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めして下さい。

▲ 警告

ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルトをしっかり締めて下さい。

又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

▲ 警告

ナイフの交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。

必ず閉めた状態で使用して下さい。

▲ 警告

小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

▲ 警告

排ガス中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

警告

斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。

斜面では、これらの操作をしないで下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では本機の山側にはいない様にして下さい。

暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

- ・安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。


(3) 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

警告

火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、ファンクラッチを「」位置にしてから始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

(5) 積み降ろし時の注意

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み降ろし共に前進「1速」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。

(6) 作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

注意

排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・スリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

警告

刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。必要に応じてスネ当て等の保護具を着用して下さい。

警告

回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近づけないで下さい。

注意

冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行ってください。

警告

石等危険物の多い場所では、事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後を目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

- ・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて必要であれば修正・交換をして下さい。

(7) 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。(該当製品)
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

危険

ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

危険

ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

- ・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

(8) 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

▲注意：

本機を傾ける時はハンドル側より見て右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジンオイル・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。

▲危険

ミッションやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。
破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

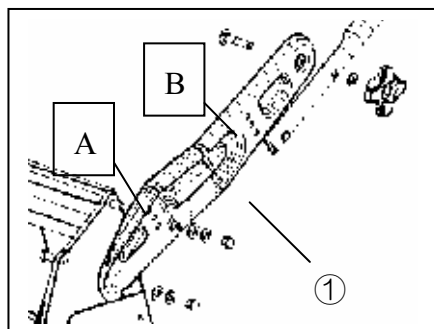
- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

▲危険

ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、
又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

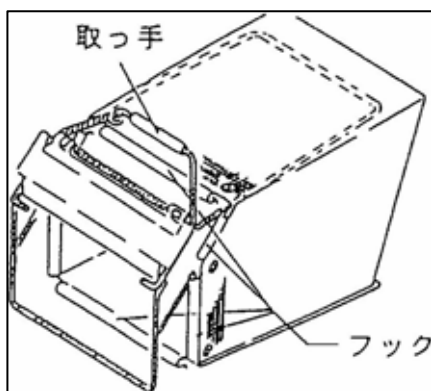
- ・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・ナイフブレーキについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《開梱後の組立について》



ハンドルの組立て

- (1) ①のハンドル取付板を本体に取り付けます。
- (2) ハンドル取付板にハンドルを取付けます。
 - ・ハンドル先端のピンをBに差込み、角根ボルトを内側より通し、座金・ノブナットで固定します。
 - ・AとBの穴の位置で、ハンドルの高さを調整して下さい。



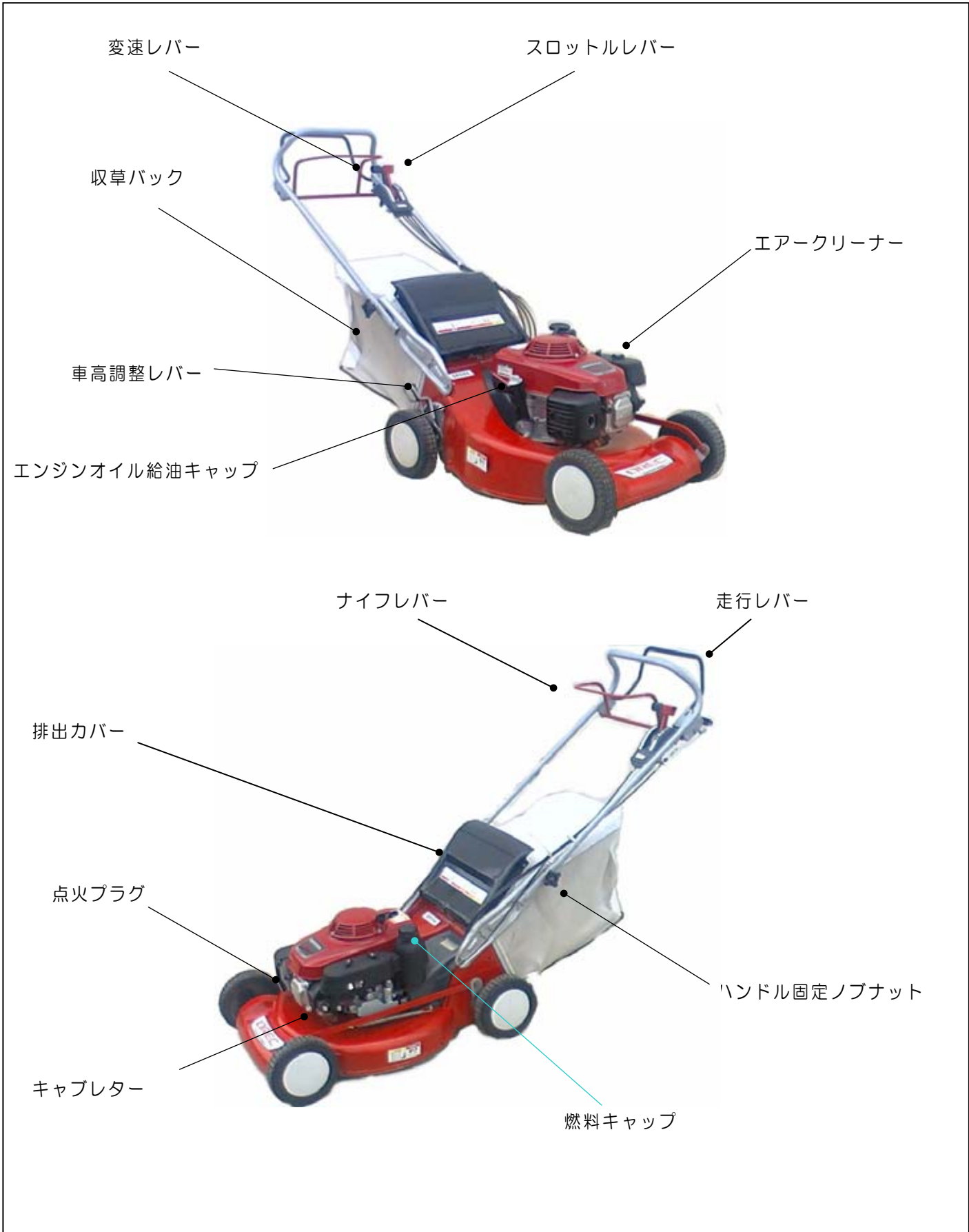
集草バックの組立て

- (1) 集草バックの中にバックフレームを入れて下さい。
- (2) 集草バックのフックをバックフレームに掛けて下さい。

参考：

フックを掛けるときには、フレームに取っ手をバックの上に出して下さい

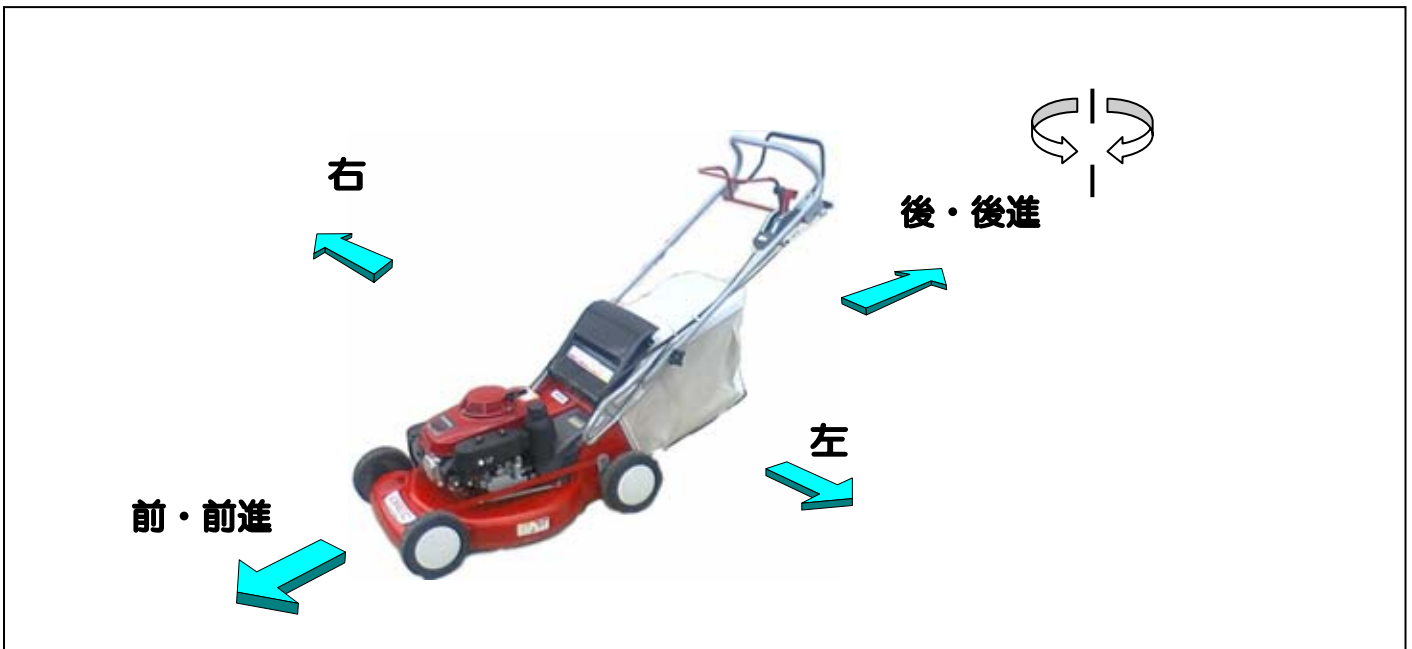
《各部の名称》



《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《各部のはたらき》

①走行レバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前へ倒しハンドルと一緒に握ると「Ⓐ」位置の状態、離すと「Ⓑ」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

②ナイフレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを手元に倒しハンドルと一緒に握ると「Ⓐ」の状態、離すと「Ⓑ」位置の状態になるデッドマン式クラッチレバーを採用しています。

③変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前進のみで1速・2速の2段階です。

変速操作は走行レバーから手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

「1速」位置ではゆっくりと、「2速」位置ではスピーディーな前進が行えます。

▲注意

変速レバーの操作は走行レバーを「Ⓑ」位置にして行って下さい。

走行レバーを握ったまま変速レバーの操作を行なうと、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

④刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。調整は5段あります。

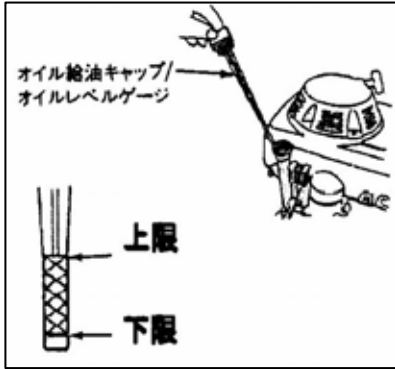
⑤ハンドル固定ノブナット

ハンドルの高さを調整し、固定します。

⑥スロットルレバー

エンジンの始動、停止、回転数の増減を調整します。

《エンジンをかける前に点検しましょう》



■ エンジンオイルの点検

エンジンオイルを確認して下さい。

◎ 給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間オイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

* エンジンによって注油方法が異なります。

－ エンジンは必ず水平（対地）状態にして下さい。 そうしないと正しいオイル量が示されません。 －

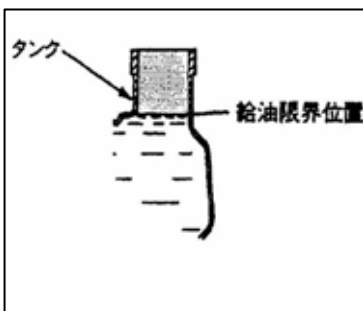
参考；

- ・ エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・ 使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

夏季（10℃以上）	SAE 30, SAE 10W-30, 又はSAE 40
冬季（10℃以下）	SAE 5W20, 又はSAE 10W-30

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。



■ 燃料の点検と補給

燃料を確認して下さい。

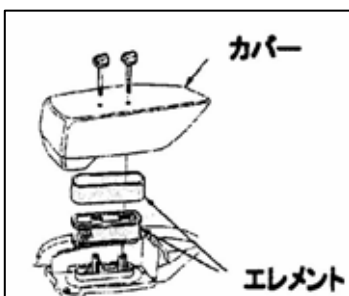
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は2.0リットルです。〉

- ・ 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- 傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。 〈11頁…エンジン始動のしかた参照〉

▲ 注意

- 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。



■ エアークリーナーの点検

ネジを外し、エアークリーナーカバーを外します。

エアークリーナーのエLEMENTの汚れを点検します。

汚れがひどい場合は、清掃してください。

〈清掃の方法は17頁参照〉

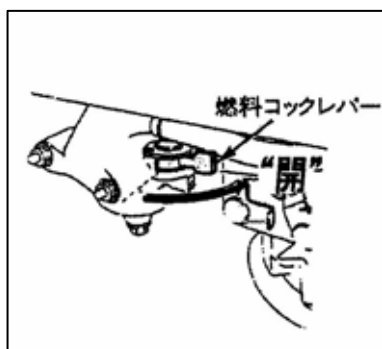
カバーを取り付け、確実にネジをしめてください。

《運転操作のしかた》

刈高さの調整

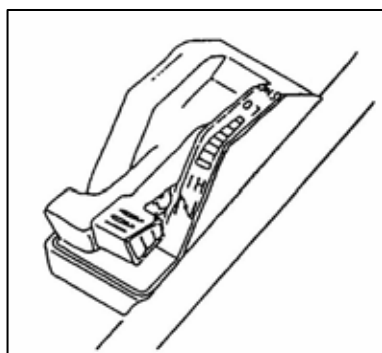
刈高さ調整レバーにより5段階調整ができます。

伸びた芝を刈り取るときには、最初刈取り高さを高くして刈取り、次に刈り取りたい高さまで下げて刈り取ってください



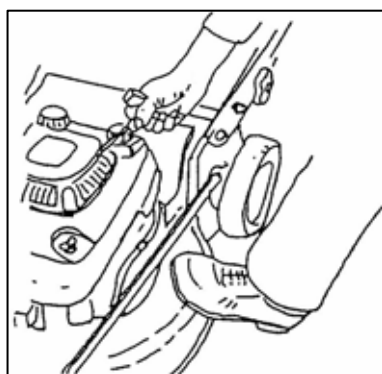
エンジン始動

①燃料コックを「開」位置にして下さい。



②スロットルレバーを『 N 』位置にして下さい。

参考；エンジンが暖まっている時は、『H』の位置で始動できます。



③ナイフカバーに片足をのせて、本体が動かないようにしっかり押え付け、リコイルグリップをゆっくり引いて、
圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。

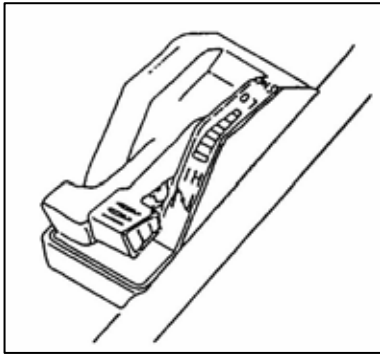
▲注意

リコイルグリップを引く時に、後方に人や障害物がない事を確認して下さい。

エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

④エンジン始動後は、スロットルレバーを『L O』位置でしばらく（3分程度）の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行なうことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命を延ばします。

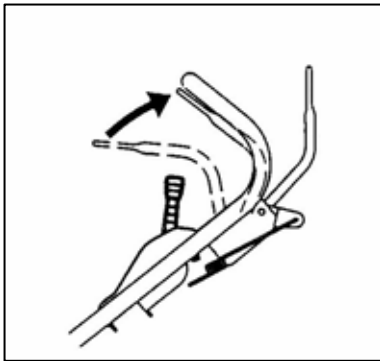
《刈取り作業の仕方》



①スロットルレバーを『HI』に合わせます。

▲注意

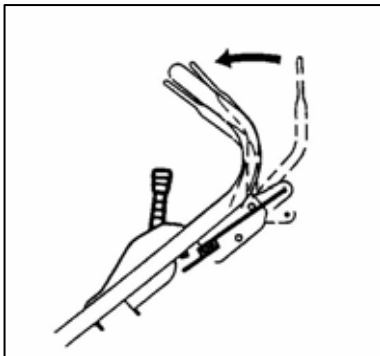
本機から離れる際には、かならずエンジンを停止して下さい。



②ナイフレバーを手元へ倒して、ナイフを回転させます。

▲注意

ナイフレバーを半分握っていると、半クラッチ状態になりクラッチの磨耗が早くなりますので、ハンドルと一緒にすばやく握って下さい。



③走行クラッチレバーを前へ倒して、刈取り作業を行います。

ハンドルをしっかり握り、足元に十分注意して、作業を行って下さい。

▲注意

速度を変更する時は、必ず走行レバーを『切』に戻し走行クラッチを切ってから、変速レバーを操作して下さい。

方向転換

方向転換するときは、ナイフレバーを『切り』にしてハンドルを押し下げて前輪を浮かし、後輪だけで回転してください。

斜面での刈り取り

- ・斜面での芝刈りは上下方向ではなく水平方向でおこなってください。
- ・斜面上の方向変換は、十分注意を払ってください。

▲注意

安全作業のため、勾配が 10° を越える傾斜地での作業をしないで下さい。

収草バックの取付け・取外し

危険

収草バックの取付け・取外しを行うときは、必ずエンジンを停止してください。物が飛び出し、ケガをすることがあります。

- ・収草バックは、その都度きれいにしてください。
- ・収草バックを取外したときは、必ず排出カバーを閉じてください。

作業終了後

- ・スロットルレバーを『STOP』にし、燃料コックを閉じてください。
- ・エンジンが冷えるまで時間をおいてください。
- ・各部分をよく清掃してください。

注意

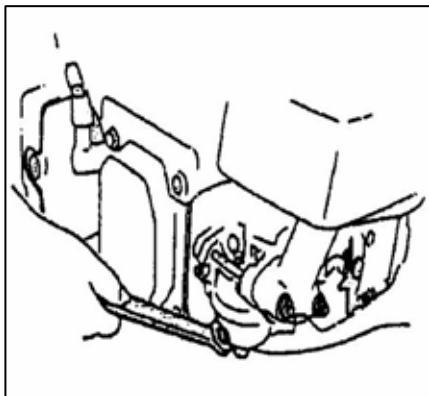
ナイフカバー内の清掃のため、本機を傾けるときは、右側を下にするか、前側を上になげ、エンジンキャブレター側を上にしてください。逆に傾けるとキャブレターの中にオイルが流入し再始動しなくなります。

- ・清掃後は、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に、本機にカバーをかけて保管してください

《長期保管のしかた》

⚠ 危険

- ・くわえタバコや裸火照明でも作業禁止。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラーが十分に冷えているのを確認してからして下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- ・本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして保管して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③各部の清掃を十分に行ってください。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラー・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

参考;ナイフカバー内に付着した泥や草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

④屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑤本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。

《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

ナイフの点検・交換

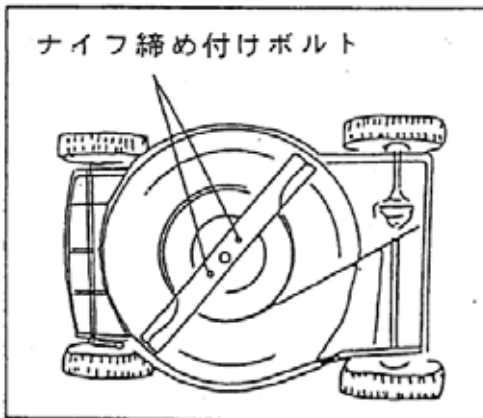
◎ 作業を安全に行うために、ナイフの作業前点検を行って下さい。

⚠ 危険

機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを点火プラグから外して下さい。

⚠ 注意

- ・本機を傾ける時は、ハンドル側よりみて右側を下にするか、前側を上へ上げ、エンジン・キャブレター側を必ず上にして下さい。逆に傾けると、キャブレターの中にオイルが流入し、始動しなくなります。また、ガソリンがこぼれ危険です。
- ・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- ・作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をお持ちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルトも消耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルトも同時に交換するようにし、決して他のボルトで代用しないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。

②本機をハンドル側から見て右側を下に倒すか、前側を上へ上げて下さい。

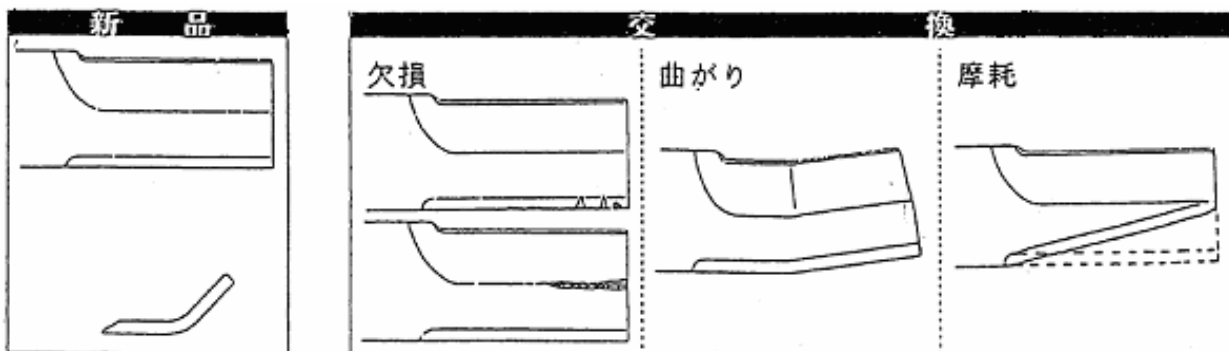
③ナイフの締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。

④ナイフの割れ、曲り、磨耗を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたら交換して下さい

★交換の際には元のとおりしっかりとナイフ締め付けボルトを締め付けて下さい。

<ナイフは二本のボルトで取り付けられています>

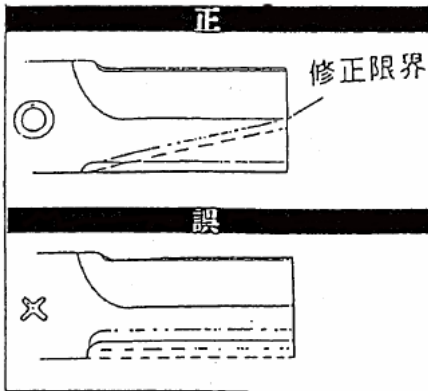


参考：

- ・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの磨耗が早いため頻りに点検して下さい。
- ・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元において置かれることをお奨めいたします。

ナイフの修正

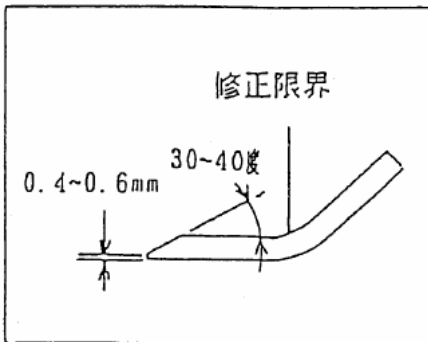
★修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれることをご承知おき下さい。★



①ナイフを取り外して下さい。＜15 頁参照＞

②以下の要領でナイフを研磨して下さい。

- ・ナイフを研磨するときはナイフをしっかりと保持して下さい。
- ・ナイフを元の刃と平行に研磨すると、破損の原因となります。左図の様に研磨して下さい。
- ・ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研磨して下さい。



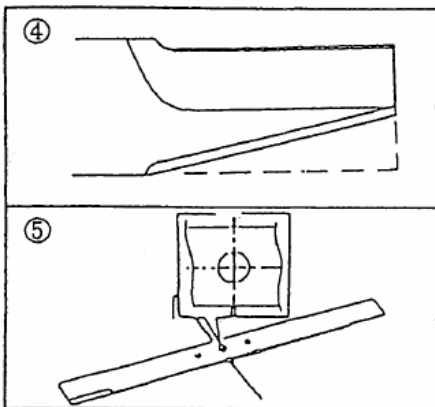
③刃先には 0.4~0.6mm 程度の平らな部分を残しておいて下さい。カミソリのように刃先をとがらせると、すぐに刃先が磨耗し切れ味が鈍ります。

参考：

- グラインダー等で研磨する際には、水をかけながらナイフ自体の温度を上げないようにして少しずつ研磨して下さい。 ..
- ナイフの温度が上がり過ぎると熱変化により磨耗速度が早くなります。

⚠ 危険

・グラインダーを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。



④刃先が左図のようになったら、新しいナイフと交換して下さい。

⑤研磨後、金ノコの刃、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右どちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分を再度研磨して下さい。

バランスの取れない場合は、ナイフを交換して下さい。

⑥ナイフを元のとおりしっかりと取り付けて下さい。

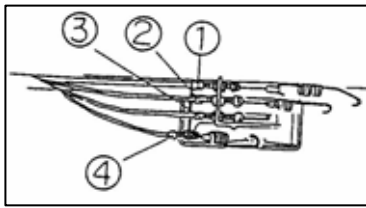
⚠ 注意

ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。

各部ワイヤ調整のしかた

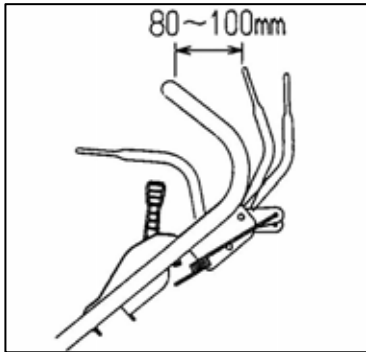
▲警告

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。



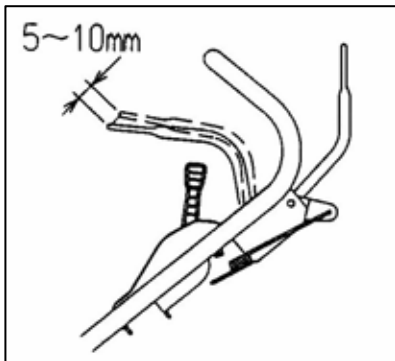
■ワイヤの組付け位置

- ① 走行ワイヤ
- ② ナイフワイヤ
- ③ スロットルワイヤ
- ④ 変速ワイヤ



① 走行ワイヤ

- ・ 走行レバーとハンドルの感覚が 80mm~100mm のところで走行クラッチが『入』になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、走行レバーを操作して、走行・停止が正しく作動する事を確認して下さい。

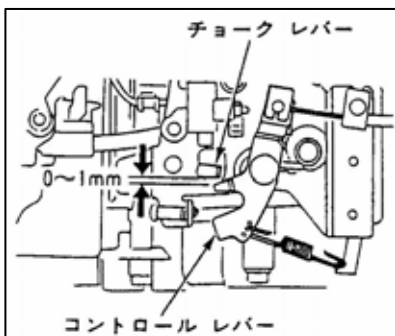


② ナイフワイヤ

- ・ ナイフレバーの遊びが 5~10mm あるようにアジャストネジを調整し、確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、ナイフレバーを操作して、ファンが正しく回転・停止する事を確認して下さい。

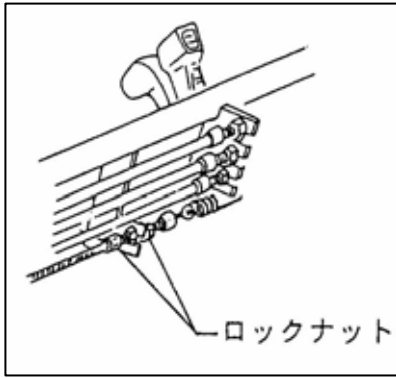
▲注意

半クラッチ,半ブレーキにならないようにして下さい。



③ スロットルワイヤ

- ・ スロットルレバーを『HI』に合わせ、エンジンのコントロールレバーがチョークレバーに接する手前の位置になるようにアジャストネジを調整し、ロックナットを確実に締め付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、スロットルレバーを操作して、チョーク・HI・LO・停止でエンジンが正しく作動する事を確認して下さい。



④ 変速ワイヤ

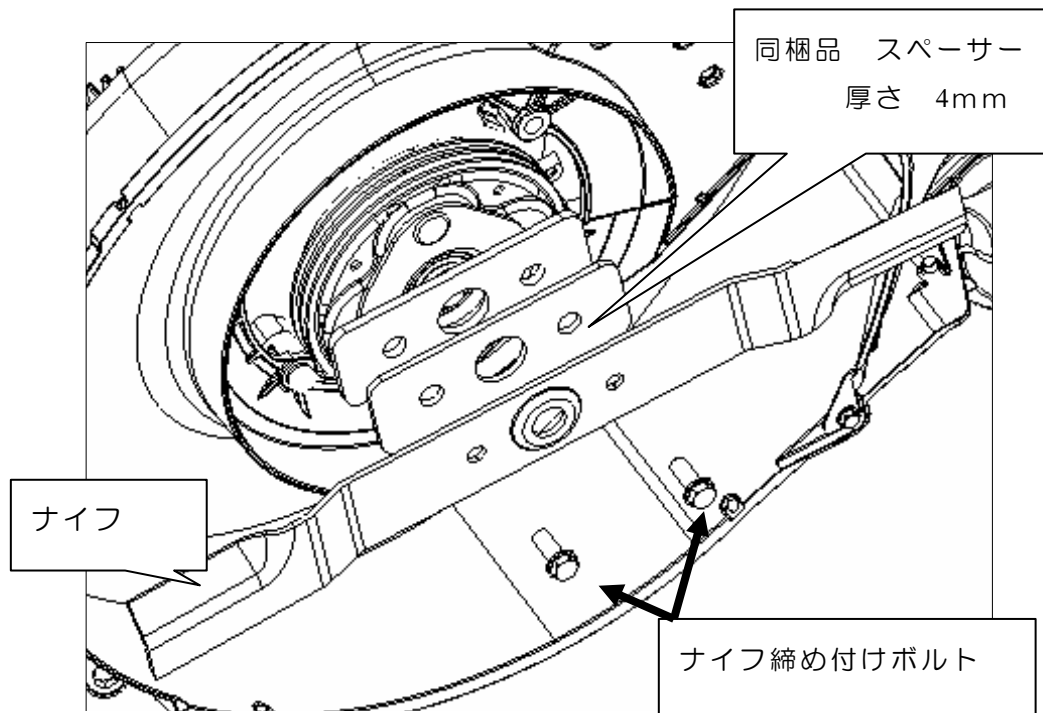
- ・ 走行チェンジワイヤに戻しバネが組み込まれていますので変速レバーには遊びがありません。ワイヤを軽く引っ張って組付けて下さい。
- ・ エンジンを始動し、変速レバーを操作して、高速、低速で走行する事を確認して下さい。

▲ 注意

変速レバーは、走行中に操作しないでください。

《スパーサー装着による刈高さ調整》

通常よりも低く刈りたい場合は以下のようにスパーサー（同梱品）を装着してご使用ください



ナイフ締め付けボルトをはずして、図のように組付済スパーサーとナイフの間に同梱品スパーサーをはさみこんで取り付けます。

取付の際は、14ページ'ナイフの点検・交換・修正のしかた'の注意事項を確認して行って下さい。

※刈高さが低くなりますので、未着用時に比べて刈取性能が落ちる場合があります。発生現象を25ページ'刈り取り性能診断'に従い適切な処置をして下さい。

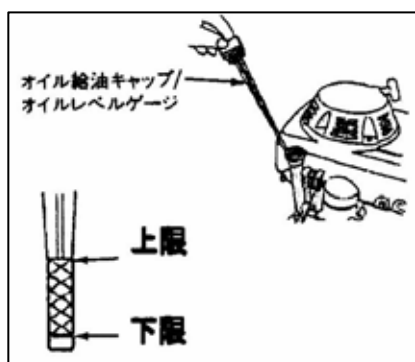
▲ 注意

ナイフの位置が低くなりますので、スパーサー未着用時より石等の飛散物が増える可能性があります。使用時には未着用時以上に安全には十分注意して下さい。

参考：刈高さ 通常 14～50mm スパーサー着用時 10～46mm

《エンジンの点検・整備・調整のしかた》

エンジンオイルの点検・補給・交換



点検・補給

- ・毎日、もしくは8時間毎に〈9頁…エンジンをかける前に〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給又は全量交換（下記参照）して下さい。
（使用するエンジンオイルの質及び量は9頁参照）

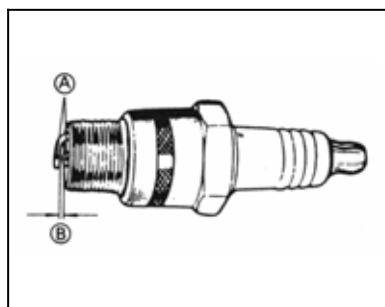


交換

- ・初回は5時間目、それ以降は50時間運転ごとを目安にオイル交換をしてください。
- ・オイル給油キャップを外し、オールドレンボルトを外します。
- ・エンジンオイルを抜き取ります。
- ・オールドレンボルトを確実に締め付ける。
- ・〈9頁…エンジンオイルの点検〉を参考に指定のエンジンオイルを規定量まで給油してオイル給油キャップを確実に締め付けてください。
〈エンジンオイル容量：0.65リットル〉

参考：エンジンオイルの交換は、暖気運転後、エンジンを停止し約5分以上経ってから火傷に注意して行って下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
〈使用点火プラグは、21項の仕様書を参照〉
- ③ 点火プラグの電極隙間Bを0.7～0.8mmに調整して下さい。

参考：

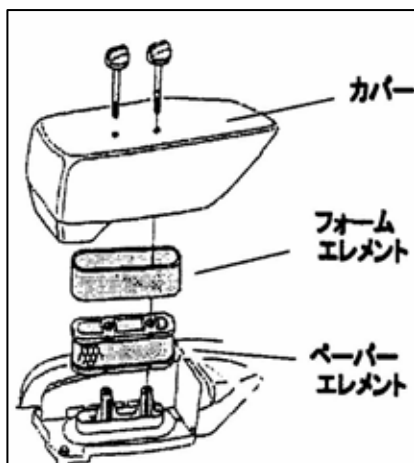
締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

エアクリーナーの清掃のしかた

⚠ 危険

エアクリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇し、火災の原因となりますので必ず定期的に清掃して下さい。



- ① 蝶ボルトを外してカバーを外して下さい。
- ② ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエアーク吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ③ フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル（SAE10W 30 相当）に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ⑤ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

⚠ 注意

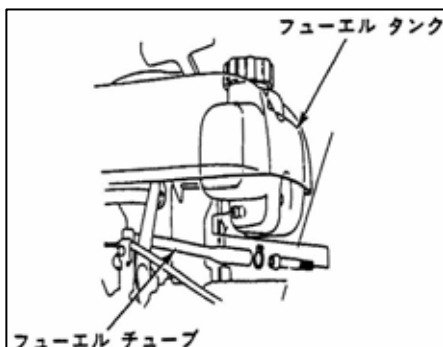
- ・ペーパーエレメントの汚れがひどい場合は新品に交換するか、石鹼液で洗浄（振り洗い）した後、水洗いし良く乾かして下さい。
- ・洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます
- ・ペーパーエレメントを叩く時にはろ紙を傷つけないように注意して下さい。
- ・ろ紙をブラシでこすらないで下さい。
- ・乾燥させる時、熱風をあてるとペーパーエレメントの接着部が痛むときがあります。低めの温風で乾かして下さい。

…エアクリーナーの清掃、交換時期について…

	清掃	交換
フォームエレメント	… 25 時間毎	
ペーパーエレメント	… 50 時間毎	200 時間毎

☆チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険

タバコや裸火照明・火気厳禁

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

⚠ 注意

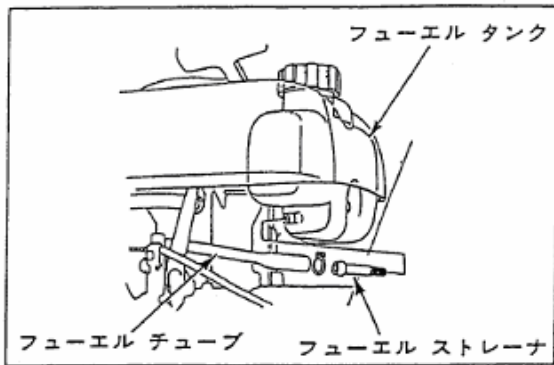
パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルターの清掃のしかた



危険

タバコや裸火照明・火気厳禁



- ・ 50 時間使用ごとに燃料フィルターを清掃して下さい。
 - ・ 作業は、ホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ・ ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は、危険ですから使用しないで下さい。
- ① 燃料タンクの中のガソリンを全て抜いて下さい。
 - ② 燃料タンク側のホースクランプ及び燃料チューブを外して下さい。
 - ③ 燃料タンク出口に挿入されている燃料フィルターを取り出して下さい。
 - ④ 燃料タンク内及び燃料フィルターに付着しているゴミを清掃して下さい。
 - ⑤ 元の通りに確実に組みつけて下さい。

そのほかの点検



注意

- ・ 各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・ 各注油個所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・ もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・ オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・ 各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。
- ・ 本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ・ 各部を十分に馴染ませる為、最初の 2～3 時間は無理な作業はさけて下さい。
- ・ 作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。

《仕 様》 (参考数値)

名 称	ローンモアー	
型 式	GR536	
全長×全幅×前高(mm)	1,620 × 564 × 1,020	
刈 幅(mm)	530	
刈 高(mm)	14～50 (スペーサー着用時 10～46)	
ナイフ	バーナイフ	
重量 (kg)	50	
バック容量(ℓ)	70	
走行クラッチ方式	デッドマン式噛み合いクラッチ	
作業クラッチ方式	デッドマン式ブレーキ付単板クラッチ	
速度 (Km/h)	①2.9 ②4.2	
ミッションオイル(ℓ)	0.07(#90)	
エ ン ジ ン	名 称	ホンダ
	型 式	GXV160
	最大出力(PS/RPM)	5.5/3,600
	始動方式	リコイルスタータ
	点火プラグ	W16EP-U,W16EPR-U(ND)/BPR5ES, BP5S (NGK)
	タンク容量(ℓ)	2.0
	オイル容量(ℓ)	0.65

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1.	取扱説明書		1	
2.	品質保証書		1	
3.	プラグレンチ	21mm	1	
4.	プラグレンチバー	6×120	1	
5.	ノブナット	M8	2	
6.	角根丸頭ボルト	M8×40	2	
7.	六角ボルト	M8×25 (8T)	2	
8.	六角袋ナット	M8	4	
9.	バネ座金	8	4	
10.	平座金8	8	6	
11.	両口スパナ	10×12	1	
12.	ゴーグル	防曇タイプ	1	保護具

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部 品 番 号	個数/台	備 考
1.	ナイフ 530	80-1020-821-10	1	
2.	ナイフ取付けボルト	89-1254-100252	2	座付きボルト M10×1.25×25
3.	ブレードワイヤ	0278-71100	1	
4.	走行クラッチワイヤ	0279-73200	1	
5.	スロットルワイヤ (H)	83-1020-955-00	1	
6.	走行チェンジワイヤ	83-1020-936-00	1	
7.	収草バック (DWO)	0279-70500-00	1	
8.				
9.	GR ラベル A	0279-70600	1	事故防止…
10.	GR ラベル B	0279-70700	2	作業環境により…
11.	GR ラベル C	0279-70800	1	このカバーなし…
12.	注意ラベル (小)	80-1020-928-00	1	プラグキャップ…
13.	操作ラベル	80-1022-915-00	1	
14.				
15.				
16.				
17.				
18.				
19.				

《定期自主点検表》

- ★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。
- ★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原 動 機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。		○	○	
	⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○	
	*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○	
	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○	
	②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○	
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラーへの草屑等の堆積。	マフラー周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ユニバーサルジョイント	①異音。以上発熱及び作動	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミツヨシ	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
		②油量、汚れ。	オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○
③油漏れ。	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○		
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
走行装置	タイヤ (ホイール)	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
	表示マーク	損傷。	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《エンジンの定期点検表》

エンジンを正常に働かせ、寿命を長くするためには、定期点検が必要です。

下記の表に従い、点検を実施して下さい。

点検項目	時 期				
	毎回	25 時間毎	50 時間毎	100 時間毎	300 時間毎
エンジンオイルの点検・追加	○				
ボルト・ナットの緩み・欠落	○				
燃料・オイルの漏れ	○				
空気吸入部スクリーンの点検	○				
スイッチ、コントロールパネルの掃除	○				
②エアクリーナーフォームフィルターの掃除		○			
ボルト・ナットの締め直し		○			
燃料フィルターの掃除			○		
①エンジンオイルの交換			○		
②エアクリーナーペーパーエレメントの掃除				○	
スパークプラグの掃除、キャップの調整				○	
燃焼室の掃除				○	
③バルブクリアランスの点検・調整				○	
②ヘアクリーナーペーパーエレメントの交換					○
②シリンダー及びヘッドフィンの埃・ゴミの除去					○

①：はじめは、5 時間運転後に行いその後は表に従う。

②：埃の激しい環境ではもっと頻繁に行う

③：この作業を行うには、内燃に関する十分な技術と工具が必要です

詳しくは、販売店にご相談ください。

《刈り取り診断表》





もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
刈草がうまく放出されない。	草が湿っている	草が乾燥してから作業する
	草が長い	刈高さを高くして、二度刈りをする
	刈高さが低い	刈高さを高くする
	エンジンの回転数が低い	最高回転数にする
	作業速度が速い	作業速度を落とす
刈残しが出る	作業速度が速い	作業速度を落とす
	エンジンの回転数が低い	最高回転数にする
	草が長い	二度刈りをする
	ナイフの磨耗、破損	新しいナイフと交換する
	ナイフカバー内面への草の堆積	ナイフカバー内面をきれいに清掃する
土削りを発生する	刈高さが低い	刈高さを高くする
	回転速度が速い	回転速度を落とす
	地形にうねりがある	草刈作業のパターン（刈取方向等）を変える
	地形に起伏（凹凸）が多い	刈高を高くする
	ナイフ曲がり	新しいナイフに交換する
ナイフがスリップする	ナイフワイヤーが伸びている	ナイフワイヤーが調整する
	ナイフカバー内に草が詰まっている	詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきれいにする
	BBCのクラッチが磨耗している。	BBCを交換する。
変速しない	変速の位置がズれている。	変速ワイヤーの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい	ナイフバランスが悪い	ナイフを修正する
	ナイフの磨耗	新しいナイフに交換する
	BBCのベアリングが破損している	BBCを交換する
	エンジン PTO 軸が曲がっている	エンジン PTO 軸を交換する
刈取作業負荷が大きい	ナイフバランスが悪い	新しいナイフに交換するか、ナイフを修正する
	エンジン回転が低い	エンジン回転数を最高にする (エンジン回転数をチェックする)
	作業速度が速い	作業速度を落とす
	ナイフの回転軸回りに草が堆積 あるいは巻きついている	ナイフをきれいに清掃する
	草が長い	刈高さを高くして、二度刈りをする
	刈高さが低い	刈高さを高くする

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジン冷却時、チョークレバーを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※ わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。



株式会社
オーレック

本 社	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
広 川 工 場	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009
城 島 工 場	〒830-0207	福岡県久留米市城島町城島23-4	TEL. 0942-62-3161(代) FAX. 0942-62-6078
仙 台 営 業 所	〒983-0821	宮城県仙台市宮城野区岩切 2丁目1-15	TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039
長 野 サ ー ビ ス セ ン タ ー	〒387-0012	長野県千曲市桜堂字西沖335-1	TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687
関 東 営 業 所	〒337-0051	埼玉県さいたま市見沼区東大宮 4-70-3	TEL. 048-651-6160(代) FAX. 048-664-0977
名 古 屋 営 業 所	〒491-0871	愛知県一宮市浅野字馬東41-1	TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003
岡 山 営 業 所	〒700-0951	岡山県岡山市北区田中123-104	TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569
福 岡 営 業 所	〒834-0195	福岡県八女郡広川町日吉548-22	TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518
鹿 児 島 営 業 所	〒899-6404	鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6	TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491